

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

事業所名	おうみの里 ほたる	管理者	富永 友子
------	--------------	-----	-------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	今回の改善計画
1. 初期支援	カンファレンスや利用開始時に、できるだけ早い段階でスタッフが参加できるようにしているものの、出勤体制で、担当者の出席が難しい。別のスタッフが出席できるようにしていく。	勤務体制に限界もあり、なかなか取り組みができなかった。	勤務体制で出席できないスタッフに対して、もっとわかりやすい情報提供を考えるようにする。もう少し勤務体制を考えるか、全員にいきわたるようなシステムを考えたいようにする。
2. 「～したい」の実現（自己実現の尊重）	入浴・排泄・終身・休憩など、利用者に確認しながらサービス提供をする。一部の利用者のみではあるが、家族の了解がある場合、送迎時に買物や銀行、公共機関などの支援も行うようにする。	「～したい」という、自分の思いを言葉に伝えられる人のみでの対応や、家族の思いばかりになっている。	ふとした習慣の表情などをしっかりと見ていく。 言葉には出さないが、行動でも表現されている「～したい」を読み取る。 日頃から目標や思いを本人に聞く。 通いの利用者に対して知る行動を増やす。
3. 日常生活の支援	以前の暮らしを知るため、積極的に家族や地域とのコミュニケーションをとるようにする。	コロナ禍で日々感染なく過ごしていくことのみが優先され情報交換などの機会があまりなく、必要時のみ短時間での支援や情報の共有を行った。	交流の機会は減ってしまっている。 コロナ感染拡大の様子を見ながら行っていく。
4. 地域での暮らしの支援	地域会議の参加や訪問時の挨拶やコミュニケーションで、情報の共有や支援を行うようにする。	長期のお泊りについては行政へ届け出を行い家族、本人とも今後のことを話している。 送迎時に挨拶やきつかけを作つて、家族とのコミュニケーションを図っていく。 独居の方については、包括をはじめ医療機関や民生委員共密に連絡を取っている。	引き続き、現在の取り組みを行っている。
5. 多機能性ある柔軟な支援	家族とのコミュニケーションをさらに十分とれるようにしていく。 お泊りが続いている利用者には、一日でも多く自宅で過ごせるよう支援する。 地域との連携を行いながら柔軟な対応をして、支援の質の向上をめざす。		

6. 連携・協働	<p>民生児童員との連携はとれているが、地域全体との連携をとるよう努力する。</p>	<p>地域全体とは連携はとれていないが、近隣との連携をとる体制を作った。</p>	<p>近隣との交流の機会をもう少し多く持ち情報の共有に努める。</p>
7. 運営	<p>日々の業務に追われ、地域行事などに積極的に参加ができていないので改善はされたい。日々のスタッフの勤務体制を考え、できるだけ利用者と一緒に地域の行事に参加していき、地域住民とのかかわりを持つようにしていきたい。</p>	<p>コロナ禍のこともあり、なかなか地域住民や地域の行事が中止となり参加や関ることが出来なかった。</p>	<p>前回の改善計画を引き続き行っていく。</p>
8. 質を向上するための取組み	<p>職員全体で研修や勉強会ができる機会を作るようにしていきたい。研修に参加し、全体会議などで情報や知識の共有を図りたい。</p>	<p>スタッフの人数も少なく、勤務体制が整わず研修参加の機会が減った。ZOOMでの研修参加も取り入れ方が時間の関係でうまく参加できなかった。</p>	<p>ZOOMやウェブ研修に参加がしやすい環境や勤務体制にする。病気等の知識をわかりやすく、各自理解できるようにすると同時に、どんなリスクに注意しないといけないかの提示していくようにする。</p>
9. 人権・プライバシー	<p>会社でのグループラインでの情報共有や家族とのメールのやり取りに気を付けるようにする。</p>	<p>短文でわかりやすい文章でのやり取りに心がけている。文章での説明が難しい場合は、写真を送付している。</p>	<p>もっとプライバシーの保護を徹底する。</p>